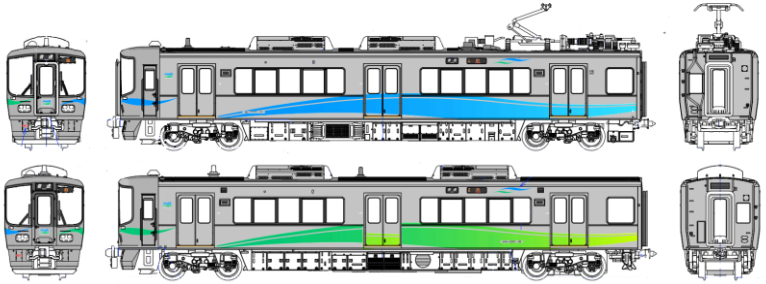
日本海から吹く、あいの風。
あいの風とやま鉄道 521系

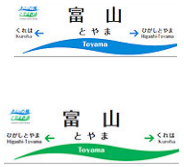


「あいの風 とやま鉄道」は、JR西日本から譲渡された21編成の車両で運行されていますが、そのうちの16編成を占める主力車種がこの あいの風 とやま鉄道521系です。
基本的にはJR西日本で運行されていた形態から変更はありませんが、外装が山側をグリーン、海側をブルーの「風」をモチーフにした美しいデザインが採用されています。

平成27年（2015）の北陸新幹線 金沢―長野開業時に、並行在来線としてJR西日本から経営分離される北陸本線のうち、富山県内区間にあたる倶利伽羅駅―市振駅間の運営を担う鉄道事業者として、平成24年（2012）に設立されたのが「あいの風 とやま鉄道」です。

見た目も美しく、2両編成でお求めやすい価格のKATO「あいの風 とやま鉄道」521系で、黒部・立山と日本海に囲まれた富山の鉄道に思いをはせてみませんか？

※521系の運転区間は、金沢（IRいしかわ鉄道）―糸魚川（JR東日本）間です



社名は一般から公募されましたが、春から夏に向けての日本海沿岸で、沖から吹く風の呼び名である「あいの風」を取り入れた、高岡市在住女性の案が採用されました。